

2025年5月、「山形大学人材育成プログラム「i-HOPE」2025
新事業創出イノベーションプログラム」が始まりました。
本記事では、2025年6月の講義の様子をご紹介します。



新事業創出イノベーションプログラム「i-HOPE」2025

- 新事業創出に必要な起業家精神と知識・スキルを学ぶプログラム
- 期間は2025年5月から12月の約8か月間
- 隔週土曜日開催で講義日は全17回

●地域産業と地域経済の基礎 (6/7)

地域特有の「土着」の産業発展を目的とした「内発的発展論」が叫ばれるようになった経緯や、技術・生産・研究・人材教育・資金・情報などを提供する機関が「ぶどうの房」状に連結・集積している「産業クラスター」形成の重要性が解説されました。さらに、地域外市場産業と地域内市場産業の違いを通して、地域内経済循環の考え方が示され、地域産業の発展における外貨獲得と内部活性の両立の意義が語られました。講義後半では、RESAS（地域経済分析システム）を活用した演習も実施され、地域分析の実践力が養われました。



山形大学 教授
人文社会科学部 准教授
講師：吉原 元子氏

●ビジネススプリングボード②～価値を確立する～ (6/7)

前回講義の「9つのステップ」と「MECE（漏れなく、ダブリなく）」の振り返りを踏まえ、今回はビジネスの「解決策」を導く視点として、立場・時間・空間で考える「ゼロベース思考」と、既存の仕組みから着想を得る方法が解説されました。「プロセス改革型」などの事例も紹介され、最後に、目に見える現象の背後にある構造やパターンを読み解く「システム思考」の重要性が語られました。



山形大学 准教授
アントレプレナーシップ教育研究センター
副センター長
講師：菅生 達仁氏

●グループワーク②～解決方法の相互検証を行う～ (6/7)

「3-2」講義の内容を踏まえ、「売上¥1.5億のスーパー銭湯が、売上目標¥3.0億を達成するための施策」、「スーパー銭湯が女性客を増やすための施策」を、ロジックツリーを用いて地道にビジネス構造を洗い出す手法でグループワークで演習として検討してもらいました。その体験を踏まえて、「ビジネススプリングボードシート」の「解決方法を設計する」、「解決方法を検証する」の2項目について、受講者の方々に記入していただきました。



山形大学 准教授
アントレプレナーシップ教育研究センター
副センター長
講師：菅生 達仁氏

●失敗事例共有会～King of failure～（6/21）

ビジネスプラン作成のためのチームで、これまでの仕事、学生生活、私生活等で、最も「失敗した」と思えることと、その失敗から何を学び、どう人生の糧にしたのかを共有するWSを行いました。冒頭、小野寺センター長から、失敗を学習の機会と捉え、挑戦を恐れず、成長の機会と捉えることの重要性が語られました。その後、各チームで最も「失敗した」事例（メンバー）を選出し、全体での発表を経て、受講者の投票によって「失敗大賞」が選出されました。



山形大学 教授
アントレプレナーシップ教育研究センター
センター長
講師：小野寺 忠司氏

●ビジネススプリングボード③～事業を構築する～（6/21）

事業構築に必要な視点として、「機能的価値」と「情緒的価値」の2種類の価値が紹介され、iPhoneを例に具体的に解説されました。これらの価値を、「どこで」「どのように」「どのタイミングで」届けるかという「チャンネル・デリバリー」についても学びました。次に「営業利益」などの損益構造や、「Cost Based Pricing」と「Value Based Pricing」の考え方、最後に市場規模を示す「SAM」について紹介されました。



山形大学 准教授
アントレプレナーシップ教育研究センター
副センター長
講師：菅生 達仁氏

●グループワーク③～事業仮説の構築、相互検証～（6/21）

ビジネスプラン作成のためのチーム編成後、初のグループワークとなったため、メンバーの「BSB（ビジネススプリングボード）シート」の記入内容の共有後、チームとして「BSBシート」の「1. 実現したい未来を描く」、「2. 課題の根本を探る」、「3. 解決方法を設計する」、「4. 解決方法を検証する」の4項目について検討し、記入をしていただきました。



山形大学 准教授
アントレプレナーシップ教育研究センター
副センター長
講師：菅生 達仁氏

Photo



授業風景



グループワーク



失敗大賞受賞の様子